

白鳥館遺跡第 24 次調査現地説明会資料

令和 7 年 10 月 17 日（金）

- 調査地点** 奥州市前沢字白鳥館地内
- 調査期日** 令和 7 年 6 月 4 日～令和 8 年 3 月 31 日（予定）
- 調査面積** 約 45.8 m²（10 月 15 日時点）
- 調査担当** 奥州市世界遺産登録推進室 及川真紀、有馬 環
- 調査目的** 白鳥館遺跡整備基本計画に基づき、整備に向けた調査を実施しているものです。今年度の調査は、昨年度の調査で確認された郭Ⅱの平場北部の柱穴の広がりを引き続き確認するとともに、郭Ⅱへの入り口での門跡の確認を目的とした補足的な調査を行いました。

調査成果

郭Ⅱ北部 郭Ⅱの平場北部では、建物跡の確認のため、昨年度の 23 次調査で多数の柱穴が確認されたトレンチ 23T7～9 の周辺にトレンチを設定し、柱穴の確認を行いました。その結果、昨年度の調査区よりも北側へ柱穴が広がることがわかりました。また、北側の土塁部分に設定した 24T5 では、土塁の一部を断ち割ったところ、盛土による土塁であることが確認され、西側の土塁とは異なる工法で築かれていることが判明しました。

今回の調査では、柱穴から構成される建物の全体像は把握できなかったものの、柱穴の分布から、白鳥館遺跡の郭Ⅱの北端には東西棟の建物が 1 棟程度建てられており、これが白鳥館遺跡の主郭の主要建物であると考えられます。また、柱穴の数が非常に少ないことから、現在の城館の姿になってから建物の建て替えはあまり行われなかったことが想定されます。

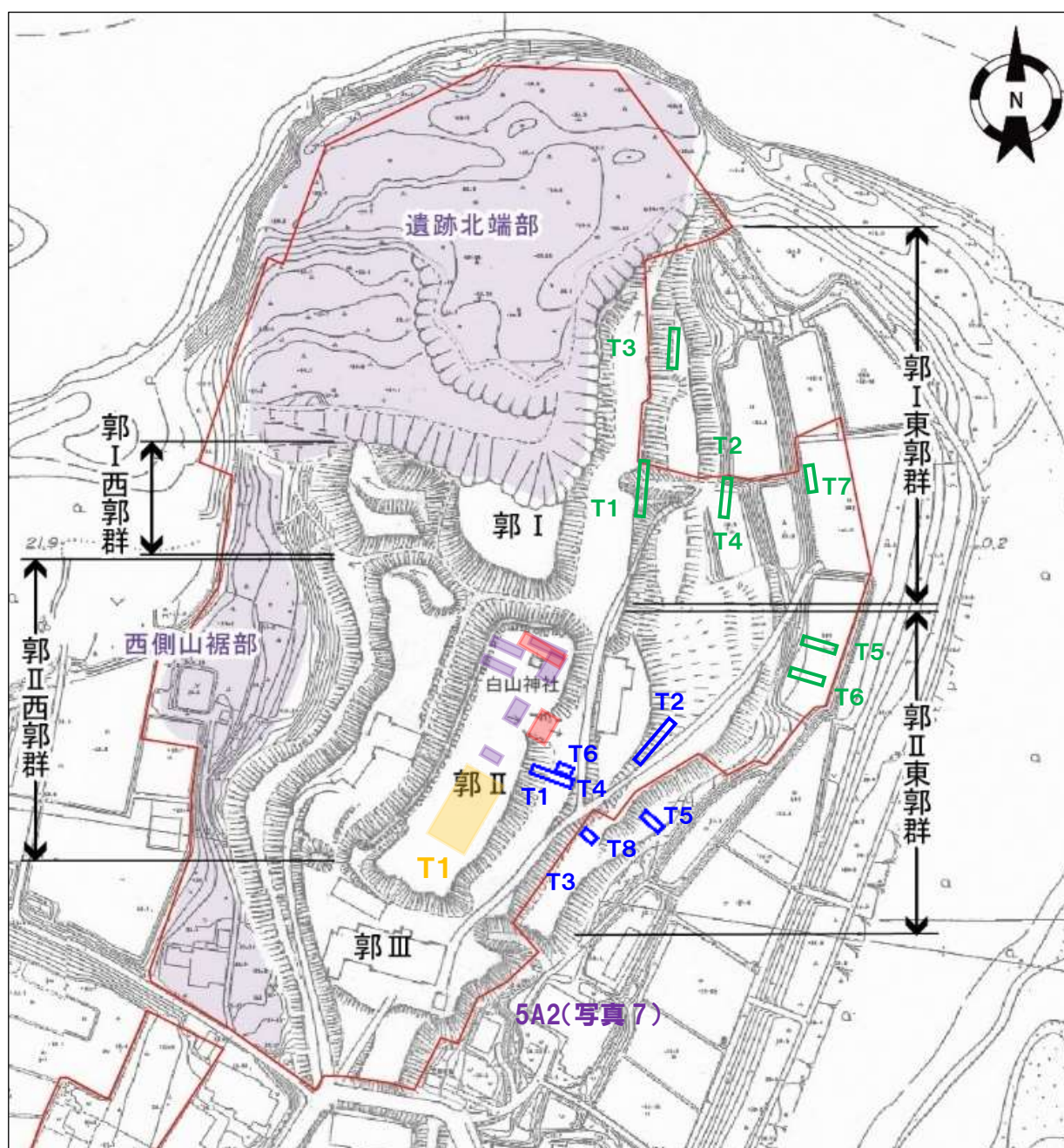
郭Ⅱ入り口

郭Ⅱの入り口では、昨年度の調査区の東側から大きな石がある付近にかけて 24T1～3 のトレンチを設定して門跡の確認を行いました。このうち 24T1 では郭Ⅱを囲繞する堀跡 24SD1 の末端部分が確認されました。また 24T2 では、昨年度の調査で確認されていた堀跡 7SD10 の延長が確認されました。このことから、この堀跡 24SD1 と堀跡 7SD10 の間が、通路であることが把握できました。

現在のところまだ門跡の確認には至っていませんが、通路が明らかになったことにより、この付近に門跡が存在する可能性がより高まりました。

まとめ

令和 3 年度から 4 か年にわたり史跡整備を目的とした調査を行ってきましたが、これらの一連の調査により、中世城館としての白鳥館遺跡の姿は、かなり明瞭になりました。今後はこれらの成果をもとに史跡の整備を進めていく予定ですので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。



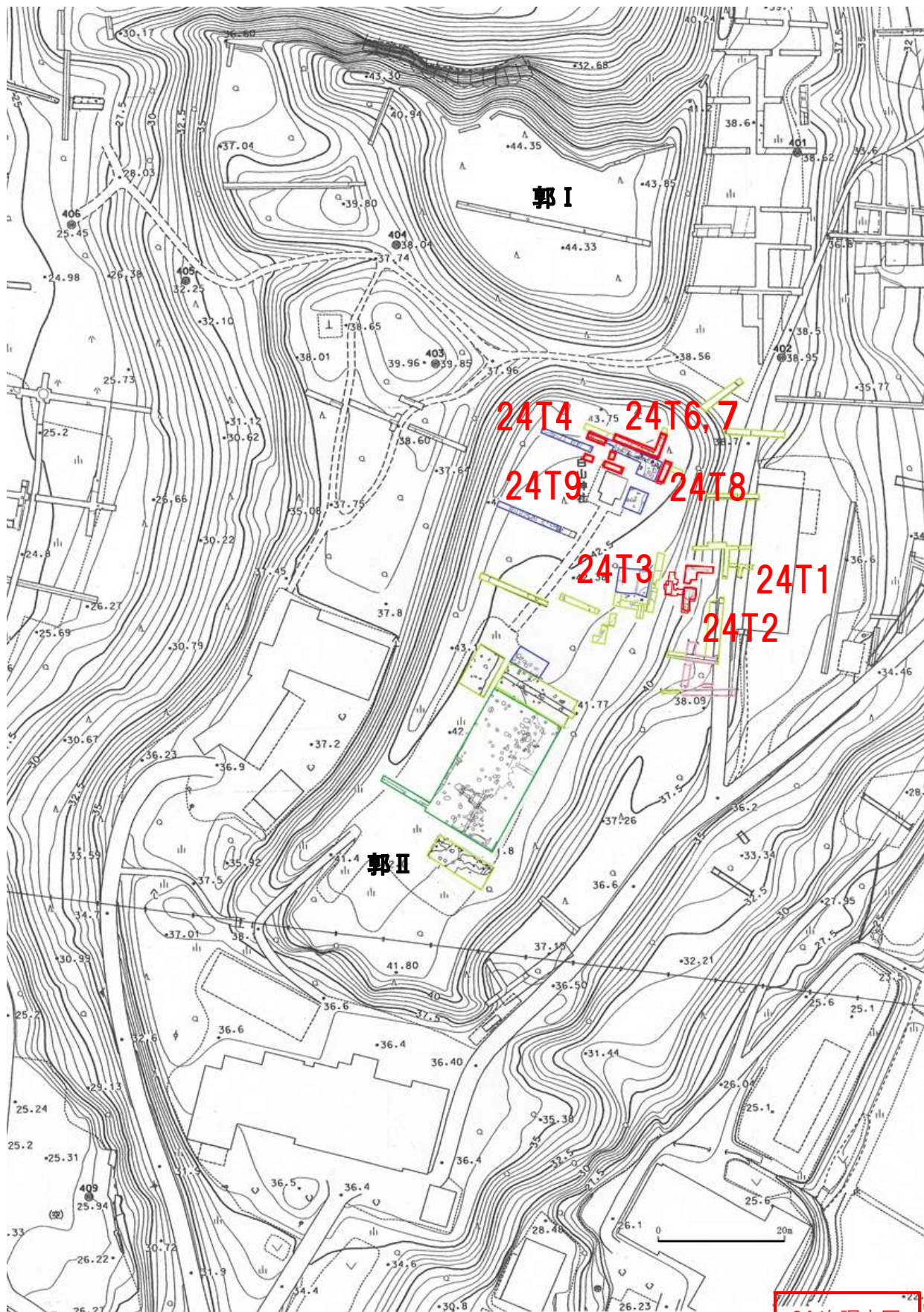
20 次調査区

21 次調査区

22 次調査区

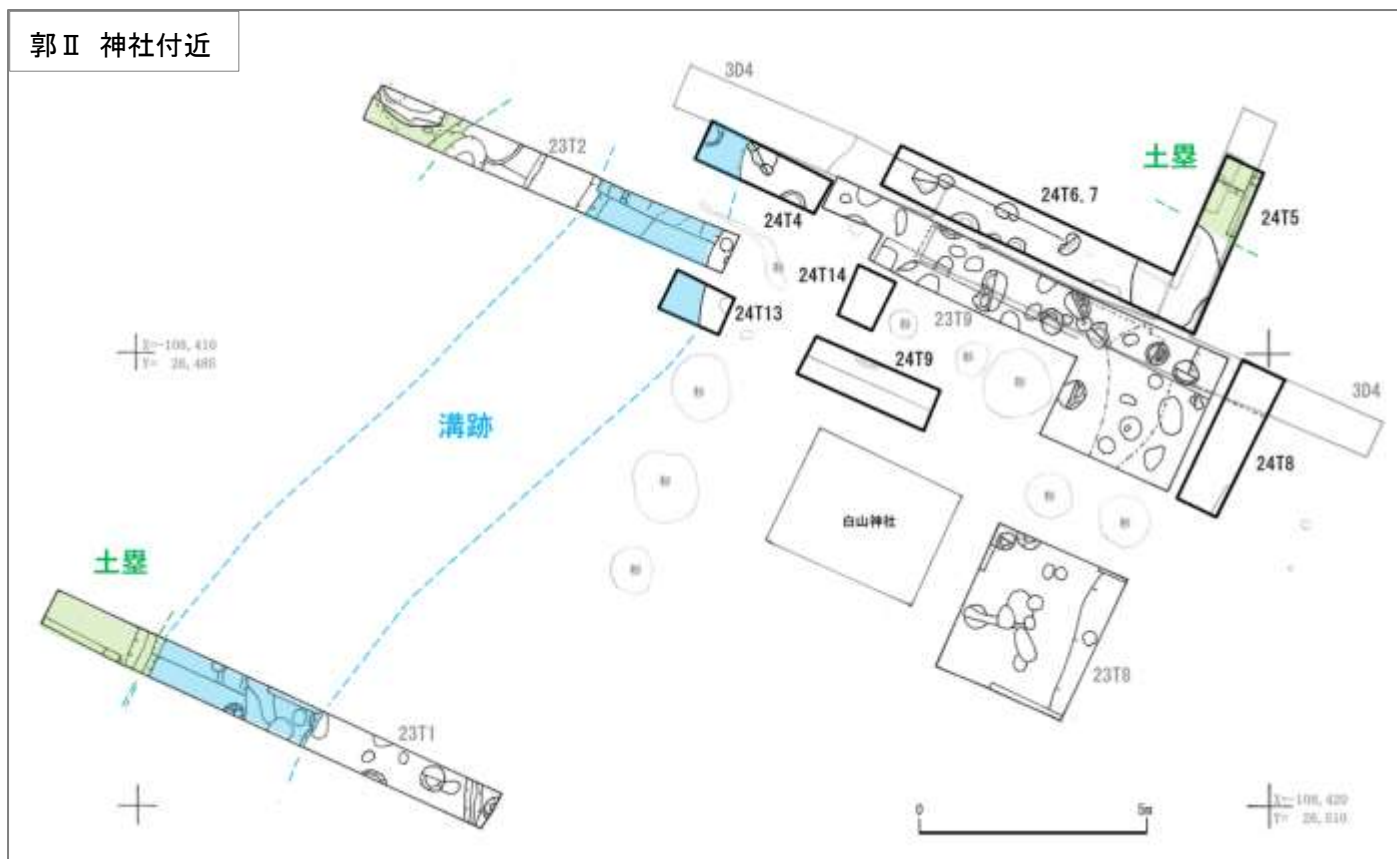
23 次調査区

24 次調査区



調査区位置図

郭Ⅱ 神社付近



郭Ⅱ 入り口付近

